

## 就任挨拶

副会長  
富野直樹



こんにちは。ニコンの富野と申します。どうぞよろしく申し上げます。率直に今の感想を申し上げますと、大変な大役を仰せつかってしまったなと思っております。ひょっとしたら、先ほどの志村様のご挨拶にあったような手に負えないやつだから、招聘してくれたのかなという気がいたしますが、非常に重い、永い70年という歴史のある知財協で緊張しております。皆様のお顔やご経歴を拝見しまして、専門家としてそれぞれ著名なご活躍をしている方々の中に入れていただいたということで、ある意味ではわくわくしております。

私自身、1975年にニコンに入り、実は31年間カメラの開発をやってまいりまして、その後半には、カメラ事業の経営を少しやってきました。知財歴というのは1年でございます。もうちょっと言えば、知財協歴は2週間でございます。非専門家でございますけれども、何らかの形で皆様のお役に立ちたいという気で意欲に燃えていると申し上げさせていただきたいと思っております。

1年前から知的財産を経営の面から見ると言われて、少しの勉強はしているんですが、三位一体という言葉がそこら中に出てきます。私の経歴からすれば、カメラの企画、設計、開発をやっていたので、『研究開発戦略』というのをやってきたつもりでございます。

それからカメラ事業の経営をしましたので、『事業戦略』もやってまいりました。そして、三位一体の3番目のところ、『知的財産戦略』をこの1年やっていることになります。

ここで、ちょっと日ごろ思っていることを申し上げますと、3という数字が今日の知財協の歴代理事長のお話のなかにも出てきまして知識を得ました。3つの司法改革とか3つのSameとか。割と『3』という数字が世の中に転がっているもんだなと感じました。桃太郎の家来も3人いますね。僕は知的財産戦略経営をやらされた1年で、『鳥』になりたいと思っております。決して、ガチョウやダチョウのような空を飛べない鳥ではなくて、知的財産を考えましたら大空に羽ばたいて、世の中の動きや動向を広く俯瞰してきちんと分析する鳥になりたいと思うのです。

これが知的財産戦略を含めた三位一体の意味かなと私なりに解釈をしまして、俯瞰分析された情報をもって、知患者の『猿』に研究開発戦略指示を与え、忠実な『犬』に事業戦略指示を与える。どうも、上流に我々知財の面々がいるんじゃないかなとこの1年で感じてきました。

最後に、ぜひ専門家の鳥の皆様方には、知的財産人材教育を私にさせていただき、本物の鳥にさせていただきたいと切にお願い申し上げます、ご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。